

# 小中接続を意識した「ラウンド制指導法」の活用 — 検定教科書を有意義に用いた中1段階の指導 —

Study of “Round System” teaching at the 7th Grades for Smoothly  
Connecting Elementary School and Middle School Education in Japan  
— with Effective Use of the Textbook —

黒川 愛子<sup>1</sup>

KUROKAWA Aiko

English activities and English education in elementary school in Japan started formally in 2020 and smooth connection between elementary school and middle school is very important. How to teach English in junior high schools is particularly essential. The main objective of this study is to analyze the application of the “Round System” (RS) method, characterized by large amounts of meaningful English input and output at the 7th grade in order to smoothly connect elementary school and middle school. It is very important to analyze the teaching for the 7th grade.

In this paper, all the six government approved textbooks for the 7th graders were analyzed and two main results are reported. One is to devise for connecting elementary and middle school English education, the other is to integrate the four skills of listening, reading, speaking and writing. This study introduces the examples of applying the RS method using the government-approved textbooks effectively.

## 1. 研究の背景と動機

文部科学省 (2017a, 2017b, 2018a) による 2020 年度からの小学校外国語活動・外国語科の全面実施 (以下, 全面実施) 及び 2021 年度からの中学校外国語科, 2022 年度からの高等学校外国語科の各改訂により, 小中高英語教育の更なる授業改善と小中・中高の接続は必須である。高橋 (2021, p. 28) では「小学校英語が教科化されたことにより, これからの中学校英語教育は小と高を橋渡す『扇の要』の重要な役割を果たすことになる」と中学校英語教育の重要性を掲げ, 松浦 (2021, p. 209) も小学校のゴールをしっかりと踏まえた中学校英語教育を強調している。文部科学省 (2021) では, 文部科学省 (2018b) の結果を踏まえ, 中学生の英語力の課題として, (1)「語や文法事項等を正しく用いて表現する力」, (2)「聞いて把握した内容について, 適切に応じることができる力」, (3)「テーマについて考えを整理し, まとまりのある文章を書く力」, (4)「質問をしたり答えたりしながらやり取りする力」, の 4 点を挙げ, それらの課題を解決する学習過程を提案している。

5 冊の高等学校教科書と 7 社の中学校教科書 3 学年分の語彙・文法項目と国公立大学を含めた 360 大学・学部分の入試問題を分析した金谷他 (2009, pp. 137-139) では, 教科書だけで大学入試に出題される語彙の 95.6 % をカバーでき, 文法は教科書内の 14 項目を抑えれば大学入試は突破できると報告し, 「教科書は言語活動を促す材料であり, 授業のよりどころはやはり教科書で

---

1 帝塚山大学 教育学部 准教授

ある」と強調している。金谷他（2015）では中学英文法のみで回答できる大学入試問題は上記調査対象問題の79%で、類推等の付加的な努力で解答できる問題を加えると89%であると報告している。教科書を効果的に用いる指導としては、竹蓋（1998）が提唱した「三ラウンド・システム」、鈴木（2007）が主唱した「ラウンド制指導法」（以下、括弧を省略）、金谷他（2017）が提唱した「5ラウンドシステム」が挙げられる。本研究では、小中接続を意識して、ラウンド制指導法を用い、全面実施以降、用いられている令和2年版文部科学省中学校第一学年外国語検定教科書（以下、中1教科書）における特長や工夫を活かし、文部科学省（2021）が挙げる中学生の英語力の課題を解決していく糸口は何かを調べ、報告を行う。

## 2. ラウンド制指導法の特長と効果

### 2.1 ラウンド制指導法の特長

鈴木（2007）は、ラウンド制指導法は「多様な方法を用いて、いろいろな角度から一つの教材を学習させる指導法」であるとし、その指導手順として、(1) 内容の概要理解、(2) 内容の要点理解、(3) 内容の細部理解、(4) 文構造と言語材料の説明と理解、(5) 音読による内容理解と言語材料の内在化、(6) 和訳と音読による言語材料の内在化、(7) 音読による言語材料の内在化とリプロダクション、(8) 復習、(9) コミュニケーション活動と、9ラウンドで行う指導例を紹介している。鈴木は、授業での留意点として、(1) 英文の内容に関する質問を「書かれてある事実を問うもの」、「推測を要するもの」、「生徒各自の意見を求めるもの」と数多く用意すること、(2) 英文を聴いたり読んだりする際のヒントとして未習語を指導し、英文の意味内容を理解する過程を通して語彙の指導を図る語彙指導を組み込むこと、(3) リーディング以外の技能も各ラウンドに組み込むこと、(4) 十分なinputからoutputへつなげること、(5) 内容把握から推論・意見発表へつなげること、(6) 内容だけでなく、英語表現に注意を向けるタスクも組み込むこと、(7) 教材提示範囲は生徒の学力に応じて決め、提示単位を徐々に大きくすること、の7点を挙げている。ラウンド制指導法の指導技術とその意義としては、「教材の黙読前に、毎回、内容に関する質問を1～2個ずつ与えて読ませることで、読むポイントを明確にし、「予想—検証」作業をし易くすること」や「理解できた英文を多様な方法で大量に音読させることで、語彙・構造の内在化を促進させること」を強調している。

### 2.2 小中接続の視点から、ラウンド制指導法の活用に期待できること

文部科学省（2017a）では、小学校段階で育成すべき「思考力・判断力・表現力等（以下、「思判表」）」は「外国語活動」では、「身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養うこと」、「外国語科」では、「身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養うこと」であるとしている。文部科学省（2017b）では、中学校段階で育成すべき「思判表」について、「『英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること』『英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること』及び『伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと』」の3点であるとしている。また、「思判表」の育成のために、「外国語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を捉え、それを整理したり吟味したりしなが

ら思考を深めることで、自らの考えを形成したり深化させたり、さらに表現を選択したりして『論理的に表現』することを重視する」としている。文部科学省（2022）では、92.1%の小学校が、授業の半分以上の時間を用いて言語活動を行っていると報告しており、児童が、小学校段階から「思判表」を意識した活動設計の中で学んでいると推察される。ラウンド制指導法では、英文の内容理解において、「推測を要する発問」及び「生徒各自の意見を求める発問」を豊富に準備し、「予想―検証」の学びを継続しながら、「内容把握から推論・意見発表へつなげること」が重視される。小学校段階から重視された「自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと」を中学校段階で引き継ぎ、さらにその力を伸ばすという点からもラウンド制指導法の小中接続への貢献が期待される。

### 3. 先行研究

#### 3.1 ラウンド制指導法の4技能5領域に対する効果に関わる研究

ラウンド制指導法を高校生対象に用いて、リスニング、リーディング、ライティングに対する効果を検証した研究には鈴木（2007）、藤田（2013）がある。鈴木では、リスニング、読解速度（語／分）、センター試験自己採点、及び記述式模試で、ラウンド制指導法群が従来指導法群より有意に優れていたことを報告している。藤田では、GTECのライティングと合計点、進研模試11月実施分、スタディサポート3月実施分において、ラウンド制指導法群が従来指導法群より有意に優れていたことや、成績層別比較で中位群のGTECのライティングと合計点、進研模試11月実施分及びスタディサポート3月実施分でラウンド制指導法群が従来指導法群より有意に優れていたことを報告している。藤田（2020）は、ラウンド制指導法は文部科学省（2017a, 2017b, 2018）が強調している技能の統合的指導であり、文章の内容を理解し理解したことに基づいて発信するという目標にも合致する指導であるとしている。

中学2年生を対象にラウンド制指導法を用いた指導を行った黒川（2019）では、1年学年末時点で等質性を確認した、ラウンド制指導法で学んだ処置群72名とラウンド制指導法は用いない指導を受けた前年度2年生72名（以下、対照群）を、2年生学年末スピーキング・テスト成績で全体比較及び、成績層別の比較分析を行い、(1)全体比較では、スピーキングの正確さでは $p = .00$ 、効果量中（.34）で、流暢さで $p = .00$ 、効果量中（.30）で、言語材料の定着では $p = .00$ 、効果量中（.40）で処置群が対照群を上回ったこと、(2)上位群と中位群のスピーキングの正確さ、流暢さ、言語材料の定着において、 $p = .02 \sim .00$ 、効果量中～大（.32～.57）で処置群が対照群を上回ったこと、の2点を報告している。

黒川（2020）では、中学2年生・3年生段階でラウンド制指導法を用いた指導を受けた処置群が、ラウンド制指導法は用いない指導を受けた対照群よりも、3年生段階で、約3か月早くスピーキンテストを受けたにも関わらず、対照群と有意差がない力を身に付けていた結果から、ラウンド制指導法が指導期間の差を埋める影響力を持つと捉えることもできると報告している。

#### 3.2 ラウンド制指導法に対する生徒の意識に関わる研究

鈴木（2007）は1年間のラウンド制指導法の活用後に、藤田は半年間の活用後に意識調査を行い、鈴木では約90%の生徒が、藤田（2012）では84%の生徒がラウンド制指導法に肯定的であったことを報告している。黒川・山川（2019）では、3年間、ラウンド制指導法を用いた指導を受けた生徒が、中学校卒業時に回答した質問紙において、(1)ラウンド制指導法により、授業内で行った様々なパフォーマンス課題を肯定的に受け止めたこと、(2)楽しく力がつく活動と

受け止めた割合が最も高かったものが自己の考えや思いを伝える個人プレゼンテーション（98.9％）で、第2位が登場人物の思いを考え発表するミニ・ドラマ発表（93.4％）、第3位がオリジナル・スキット発表及び場面設定がある自由会話活動（89.7％）であったこと、を報告している。これらの結果から、ラウンド制指導法の特長が生徒のアウトプットへの動機づけに繋がっていることが推察される。

#### 4. 本研究の目的

本研究の目的は、文部科学省（2021）が挙げる中学生の英語力の課題の解決（以下、課題解決）に向けて、ラウンド制指導法を活用し、中1教科書をどのように有意義に用いて指導を行うことができるかを調べることである。

本研究では以下の2つの研究課題を設定する。

研究課題1：ラウンド制指導法の活用及び小中接続の視点から、中1教科書にはどのような特長と工夫が行われているかを調べる。

研究課題2：中1教科書内の特長と工夫を活かして、ラウンド制指導法のいかなる活用が、課題解決に向けて貢献できるかを調べる。

#### 5. 研究の方法

6社の中1教科書における小中接続及び4技能5領域向上に向けての特長及び工夫を、インプット面とアウトプット面に分けて調べ、ラウンド制指導法を用いる際に、それらの特長及び工夫をどのように活かすことで、課題解決に貢献できるかを調べた。

#### 6. 結果と考察

6.1 研究課題1：ラウンド制指導法の活用及び小中接続の視点から、中1教科書及び中1デジタル教科書にはどのような特長と工夫が行われているか。

6.1.1 中1教科書における小中接続に向けての特長と工夫

小中接続に向けての工夫としては、6社の全ての教科書の最初に、小中接続を意識した小学校段階の学びの復習を行う単元（以下、復習単元）が設定されていることが挙げられる。BLUE SKY English Course 1（以下、BS1）ではLet's Start!（計16ページ）が、Here We Go! ENGLISH COURSE 1（以下、HW1）ではLet's Be Friends!（計20ページ）、NEW CROWN English Series 1（以下、NC1）ではStarter（計6ページ）、New Horizon English Course 1（以下、NH1）では、Unit 0からUnit 5までの計53ページが、ONE WORLD English Course 1（以下、OW1）ではSpringboard（計8ページ）、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1（以下、SE1）ではGet Ready（計14ページ）が復習単元である。

表1に各教科書の復習単元内の「聞くこと」に関わる活動設計を示す。

表1 各中1教科書の復習単元内の「聞くこと」の活動

教科書	「聞くこと」の活動内容
BS1	英単語を聞き、絵の中にある単語を指さす、または、2つの絵から選ぶ。
HW1	会話を聞き、内容に適する絵を選ぶ。各Listenで1つの日本語の質問に対して答える。
NC1	2名の対話を聞き、「いつ、どんな行事があるのか」、「それぞれの誕生日について聞いてみよう」、「それぞれ、どの授業が好きかを聞いてみよう」等の設定に対して聞き取る。
NH1	Unit1ではUnitの内容に関わる音声を読み、その内容に合う絵を選択する。 Unit2以降は単元最初に各Partに対する各1問の日本語の質問に答える。

OW1	やり取りを聞き、絵の中のどの場面での会話なのかを選ぶ。英語を聞き文字を選ぶ。
SE1	英語を聞き登場人物と絵を線で結ぶ。英語を聞き内容に合うものを線で結んだ後、それをヒントにその登場人物の行きたい国を考える。

表1より、6社とも復習単元内に絵をヒントに英語を聞く活動が設定され、HW1, NC1, NH1には1つの質問に答えることを目的に聞く活動、OW1には「聞くこと」から「読むこと」に繋げる活動、SE1では復習単元の段階から「聞いて推測する活動」も意図されていることがわかる。

### 6.1.2 中1教科書の復習単元から後の単元（以下、中1単元）における「聞くこと」に関わる活動の特長・工夫と考察

表2に中1教科書内の中1単元における「聞くこと」の活動の特長・工夫を示す。

表2 各中1教科書内の中1単元における「聞くこと」の活動

教科書	「聞くこと」の活動内容
BS1	各Part内で、本文とは異なる会話を聞き、内容に合う絵や語彙を選ぶ活動や聞き取った金額を書く、話している内容を聞き取り、その内容を示す絵に順番を書き込む。
HW1	各UnitのCheckにおいて提示された絵や写真を見て、ストーリーの話題を予測してから、Listenにおいて、ストーリーの大まかな内容を掴む。
NC1	各Partの本文の下に1つあるQ&A（日本語）に答えて、各Partの概要を掴む。
NH1	各単元最初のEnjoy Listeningで単元内の教科書本文（以下、本文）の一部や本文全体に関する内容を聞き、提示された質問に対して選択式回答を行い、単元全体の概要を掴む。
OW1	Lesson1のListenでは「どんな話をしているか、聞いてみよう」、Lesson2のListenでは2つの会話を聞き、よいところとよくないところを比べてみよう」等の指示を得て、聞く。Lesson3ではListen & Readとなり、2人の登場人物が個別に話す場面から「2つの場面を比べて、英語の表現の違いについて考えよう」等の聞く目的が提示され聞く。Lesson4以降は本文の前には簡単な状況説明だけが提示さ、発問の提示はない。
SE1	各Partの本文下にQ&Aと英文が提示され、内容に合っているかどうかを聞き取り答える。また、登場人物になったつもりで、英語の疑問文に答える。

表2から、BS1では本文以外の英文を用いて単元最後まで継続的に基本的な「聞くこと」に取り組みせようとする意図が、HW1, NH1では単元全体の概要を掴ませようとする意図が、OW1及びSE1では各Partの概要を掴ませようとする意図が、OW1の後半の単元では、生徒が自身の力で聞いて読むことで理解を進めることを促そうとする意図が観察される。

### 6.1.3 中1教科書におけるインプットから統合的な活動を意図した活動

表3に中1教科書内の「読むこと」から他の領域へと技能統合を意図が観察される活動例を示す。

表3 中1教科書内の「読むこと」から他の領域との技能統合の意図が観察される活動例

教科書	単元名	「読むこと」から他の領域との技能統合の意図が観察される活動例
BS1	Project 1「自己紹介をしよう」	自己紹介文を読んでわかったことをメモする活動
	Project 2「友達にインタビューしよう」	英字新聞の友達紹介コーナーの記事を読み、インタビュー内のどの質問の回答であるかを考え、記事に適する見出しを考える活動
	Project 3「日記を書こう」	1日の出来事を時系列に書いた日記と出来事を詳細に書いた日記を読み、わかったことをメモし、教科書内の日記の構成に従って、自身が書いた日記を友人と交換し、やり取りする活動
HW1	You Can Do It! 1	6人のプロフィールを読み、共通点・相違点を見つける活動から、グループ内で自己紹介をし、互いの共通点・相違点を見つける活動
	You Can Do It! 3「学校行事の紹介ページを作ろう」	海外の学校のウェブサイト上の英文を読み、自分たちの学校との共通点や相違点を見つけ、自分たちの学校のウェブサイトでどのような学校行事を紹介したかをグループで考え、その案を英語で発表し、各グループの案を読み合い、コメントを書き合う活動

NC1	Project 1「理想のロボットを発表しよう」	最初に2名が考える理想のロボットについての発表を聞き、自身の理想のロボットについて考え、メモに書き出す活動。そのメモの内容からペアでやり取りを行う活動、モデル原稿を読み、自身の発表原稿を書き、理想のロボットを絵に描き、それを見せながら発表する活動
-----	--------------------------	---

表3から、「読むこと」から、BS1では「話すこと[やり取り]」へ、HW1では「書くこと」へ、NC1では「話すこと[発表]」へ繋げようとする活動設計の意図が観察される。

#### 6.1.4 中1教科書におけるインプットからアウトプットを意図した活動設計の特長と工夫

表4にNE1のUnit 6 A Speech about My Brotherにおけるインプットからアウトプットへの活動設計を示す。当該単元のGoalは「自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりすることができる」である。表4内のLは「聞くこと」、Iは「話すこと[やり取り]」、Pは「話すこと[発表]」、Wは「書くこと」を示す。

表4 NE1のUnit 6の活動設計

項目	領域	活動内容
Warm-up	L	メグとジョシュによる兄弟紹介スピーチを聞き、メモをする。
Enjoy Listening	L	麻美の家族紹介スピーチを聞き、内容に合う日本語、写真を選ぶ。
Preview	L&R	麻美の簡単な兄紹介についての海斗のやり取りを理解する。
Story 1 (本文)	L&R	Show & Tellとしての麻美の兄紹介スピーチの内容を理解する。
Story 1 Practice	I, P, R, W	3人称単数現在形を用いた肯定文の口頭練習を行う。
Story 2 (本文)	L&R	Story 1での兄紹介スピーチの続きを理解する。
Story 2 Practice	I, P, R, W	doesn'tを用いた否定文の口頭練習を行う。
Story 2 Listen	L	ジョシュの友達紹介、海斗のペット紹介を聞く。
Story 2 Speak & Write	I & W	ペアでインタビューをし合い、わかったことを英文で書く。
Story 3 (本文)	L&R	Story 1, 2本文内の兄紹介スピーチに関わる対話文を理解する。
Story 3 Practice	I, P, R, W	Doesを用いた疑問文・応答文の口頭練習を行う。
Unit Activity	P, I, W	Story 2でインタビューし合った相手と別のペアとの4人グループで、互いに友人紹介スピーチを行い、その内容に関するやり取りを行う。それらからわかったことをまとめ、友達紹介文を書く。

表4から、豊富なインプットを繰り返し与えながら、「話すこと[発表]」、「話すこと[やり取り]」、「書くこと」というアウトプットに繋げていこうとする意図や「聞くこと」から技能統合に繋げていこうとする意図が観察される。

6.2 研究課題2：中1教科書の特長と工夫を活かして、ラウンド制指導法のいかなる活用が、課題解決に向けて貢献できるかを調べる。

##### 6.2.1 ラウンド制指導法におけるインプットの工夫

文部科学省(2021)は、インプット時の工夫として、「聞き取りの目的の明確化」、「生徒の聞き取りの状況を可視化」、「目的に応じた聞き取りの仕方(必要な情報を聞き取る、概要を捉える、要点を捉える)を指導する際の教師の支援の内容と方法の検討」の3点を強調している。ラウンド制指導法の特長的な活動に本文の内容理解の最初に行う「概要を示すタイトル選び」があり、単元全体の概要を掴む際のタイトル選び、各Part内の概要を掴む際のタイトル選びの2種類がある。この活動は文部科学省が強調する点に繋がると考えられる。HW1, NC1, NH1では単元全体を通して聞き、その概要を掴んでから各Partの内容理解に進む活動が、BS1では本文とは異なる内容を聞き概要を掴む練習を続ける活動が、SEでは単元内の各本文の概要を掴む活動が工夫されている。まとめてインプットされる量の異なりはあっても、ラウンド制指導法を用

いての内容の概要理解，要点理解，細部理解へと進む活動設計はどの教科書を用いても可能であり，「聞いて把握した内容について，適切に応じることができる力」に繋がると考えられる。

### 6.2.2 ラウンド制指導法におけるQ&Aシートの活用

ラウンド制指導法の特長として，「内容理解に関わる大量の英語のQ&Aが記載されたシート（以下，Q&Aシート）」の活用がある。このQ&Aシートは，(1) 教師とともに音読練習を行う，(2) ペアワークで推測発問や意見発問を含めたQ&Aを行う，(3) read and look up でやりとりを行い，答える生徒はシートなしで答える，(4) シート裏面の日本語Q&Aを見て英語でペアワークを行う，という手順で活用する（黒川，2020）。Q&Aシートの活用は復習単元の学習時から可能であり，小中接続の視点からも有効であると考えられる。本稿ではNH1の復習単元Unit 1の内容理解時に活用可能なQ&Aシート活用例を挙げるため，表5にNH1のUnit 1本文を示す。

表5 NH1内Unit 1本文

Part	本文
Part 1	Hello, everyone. I'm Margaret Brown. Call me Meg. I'm from Australia. I'm twelve. I like Japanese food. I love sushi. I often drink tea, too.
Part 2	Kaito: Are you from Sydney? Meg: Yes, I am. Kaito: So, are you a rugby fan? Meg: No, I'm not. I'm a cricket fan. Kaito: Cricket? Do you play it, too? Meg: No, I don't. I just watch it. Kaito: How about soccer? Do you like soccer? Meg: Yes, I do.
Part 3	Asami: Do you play badminton? Meg: Yes, I do. Asami: Good. Me, too. Well, can you see the gym? Meg: Yes, I can. Asami: We can play badminton there. Meg: Great. Asami: You're a good player. Meg: Thank you. Arigato. Asami: Oh, you speak Japanese. Meg: Yes, just a little. I study it every day, but I can't read kanji.

小中接続を意識して最初に用いるQ&Aシート例として，表5内Part 1本文の内容理解時には，小学校での既習内容を用いて，「あなたがメグだと考えて，教員やパートナーとやり取りしよう」という設定が考えられる。Are you Margaret Brown? Are you Meg? Are you from Australia? Are you from America? Are you twelve? Are you thirteen? Do you like Japanese food? Do you love sushi? Do you often drink green tea, too? という問いをQ&Aシート上に記載し，ペアの一人は発問し，もう一人の生徒はYes, I am. No, I'm not.あるいは，Yes, I do. No, I don't.のいずれかを選んで応答する。続くQ&Aシート例としては，Is Meg from Sydney? Is Meg a rugby fan? Does Meg play cricket? Does Meg just watch cricket? Does Meg like soccer? という問いを掲載し，答える生徒はYes, she is. No, she is not.あるいはYes, she does. No, she does not.から選択して応答する。次の段階のQ&Aシート活用例としては，Where is Meg from? She is from Australia. How old is Meg? She is twelve. What does Meg often drink? She often drinks green tea. What sport does Meg like? She likes soccer. のような疑問詞を含めた疑問文に対してのやり取りがある。生徒はShe is ( ) のように括弧を含めた答えが記載されたQ&Aシートを用いて，ペアワークを行う。疑問詞部分を括弧にしておくQ&Aシートも活用できる。最初は，Q&Aシートを用いて教員と生徒全員で十分な音読練習を行い，Read & look up を用いながらのペアワーク，異なったパートナーとのペアワークを授業最初に毎回行い，最終的にはQ&Aシート裏にある日本語の質問と答えだけを見てやり取りできる

まで継続していく。既習内容を豊富に繰り返し活用するQ&Aシートを用いての活動は「語や文法事項等を正しく用いて表現する力」、「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる力」、「質問をしたり、答えたりしながらやり取りする力」の課題解決に貢献できると考えられる。

上記のような本文に書かれている事実を問うQ&Aシートの活用に加えて、ラウンド制指導法を用いた授業では、「推測を要する質問」、「生徒各自の意見を求める質問」を数多く用意する。表5内のPart3の本文を用いた例としては、「朝美はどんな気持ちでCan you see the gym?とメグにたずねたのでしょうか?」「あなたなら、留学生のMegにどのような質問をしたいですか?」「Part3内のAsamiの台詞を全て自身の台詞に変えて、やり取りを行う」「あなたが海外に留学生として行った際に、やり取りしたい対話を考えて発表しよう」等の活動も考えられる。さらに、ラウンド制指導法では「内容把握から推論・意見発表へつなげること」が重視され、「自身が海外に留学することになった際、あるいは英語で自己紹介を行いたいとき、伝えたい内容を考えて発表しよう」といった活動も行う。これらの活動も「聞いて把握した内容について適切に応じることができる力」や「質問をしたり答えたりしながらやり取りする力」の課題解決に繋がると推察される。Van Pattern, Smith, G. Benati (2020, pp 56-57) では“*What is more, by engaging with another speaker, that learner is getting that person to talk more, which simply increases the amount of input as well. So the idea here is that a learner engaged in making meaning through communicative output gets more conversational input from other speakers. The more input, the better – and more the input is comprehensible, the better.*”と、発話者が他者とのやり取りの中で、より理解を深める重要性を強調している。ラウンド制指導法では、このような他者とのやり取り、生徒が思考を働かせ、互いの思いを共有することで、アウトプット力を高め合う特長があると考えられる。

### 6.2.3 ラウンド制指導法のアウトプットにおける工夫

ラウンド制指導法における「英文を聴いたり読んだりする際のヒントとして未習語を指導し、英文の意味内容を理解する過程を通して語彙の指導を図る語彙指導を組み込むこと」、「リーディング以外の技能も各ラウンドに組み込むこと」、「十分なinputからoutputへつなげること」、「内容把握から推論・意見発表へつなげること」という留意点は、先述した中1教科書内の特長や工夫を活かしつつ、指導できると考えられる。ラウンド制指導法を用いてのアウトプットとして最も力を入れる活動は「音読による言語材料の内在化とリプロダクション」である。ラウンド制指導法を用いて、先述した中1教科書内の「聞くこと」「読むこと」から技能統合に繋がる活動設計の工夫を活かし、かつ応用して、多様なリプロダクションが可能となると考えられる。SE1のPROGRAM5では、Scenesでイラストとともに、他の人(1名)がすること、しないことについてやり取りする英文があり、続くThinkでは真央が登校指導をする祖父のことを留学生のダニエルに伝え、アメリカでも登校指導(Junior Safety Patrol)があるとダニエルが話すやり取り、及び、真央と健がダニエルの家に遊びに行き、ダニエルの家でも靴を脱いで生活していることやJunior Safety Patrolをしているダニエルのいとこの写真を見せてもらっている対話文がある。本単元では、Tryとしてグループでの他者紹介が設定され、続くInteractでは日本語で書いた友達紹介カードをもとにペアでやり取りし、その友達の名前を当てる活動があり、友達紹介文を書く活動に繋がっている。

表6にSE1のPROGRAM5の学習時にラウンド制指導法を用いたリプロダクション例を示す。



表6 SE1内 PROGRAM 5の学習時にラウンド制指導法を用いて設定できるリプロダクション例

項目	内容
1 Scenes内のサマリー	Scenes内の対話文の内容理解・音読練習後、サマリーを行う。
2 Thinkの内容のサマリー	Think内の対話文の内容理解・音読練習後、サマリーを行う。
3 Think 1を用いたアレンジ・スキット発表	Think 1内の英文を参考に、自分が紹介したい人について、パートナーとやり取りしながら伝えるスキットを口頭練習で作成し、ペアで発表する。発表後に、その内容を書く活動を行う。
4 Think 2を用いたオリジナル・スキット発表	自宅に海外の人が訪問した時に、自分の生活や、自分が紹介したことや伝えたいことについて考え、オリジナル・スキットを口頭練習で作成し、ペアで発表する。発表後に、その内容を書く活動を行う。

表6で示した内容は、ラウンド制指導法を用いて、「リーディング以外の技能も各ラウンドに組み込むこと」、「内容把握から推論・意見発表へつなげること」及び、教科書内に豊富に盛り込まれている技能統合を意図した設定を活かす活動であると考えられる。また、文部科学省(2021)が挙げている「「テーマについて考えを整理し、まとまりのある文章を書く力」の課題解決にも繋がると考えられる。

## 7. 結論

先述した結果と考察から、結論として以下の2点が挙げられる。

- (1) 中1教科書は小中接続及びラウンド制指導法の活用の視点からも多様な工夫が観察され、それらの工夫を、ラウンド制指導法を用いた指導で活かすことができると推察される。
- (2) 中1教科書の特長と工夫を活かしたラウンド制指導法の活用は、課題解決に貢献できると推察される。

## 8. 今後の課題

小中接続の視点から、本研究では中1教科書内の特長と工夫を調べたが、今後は、中学2年生段階、中学3年生段階の教科書内の特長と工夫も調べ、ラウンド制指導法をどのように活用することが、小中接続及び中学生の4技能5領域の向上に繋がるかの探究を続けたい。

本研究が中1教科書を用いてのラウンド制指導法を活用した授業の一提案として、貢献できれば幸いである。

## 引用文献

- 藤田賢 (2012). 「『ラウンド制指導法』を用いた教科書を使った英語で行う授業の研究」『中地区英語教育学会紀要』41, 221-228.
- 藤田賢 (2013). 「高校英語授業における『ラウンド制指導法』と『文法訳読法』による効果の比較」『中地区英語教育学会紀要』42, 269-274.
- 藤田賢 (2020). 「高校英語授業におけるラウンド制指導法による実践例とその効果」『人間文化: 愛知学院大学人間文化研究所紀要』35, 154-172.
- 本田敏幸他 (2021). *ONE WORLD English Course 1*. 教育出版.
- 金谷憲他 (2009). 『教科書だけで大学入試は突破できる』大修館書店.
- 金谷憲他 (2015). 『中学英文法で大学英語入試は8割解ける!』アルク.
- 金谷憲他 (2017). 『英語運用力が伸びる5ラウンドシステムの英語授業』大修館書店.
- 笠島準一他 (2020). *NEW HORIZON English Course 1*. 東京書籍.
- 黒川愛子 (2019). 「日本人中学生のスピーキング力育成に対するラウンド制指導法の有効性に関する実証研究—中学2年生段階での活用—」『LET関西支部研究集録』17, 31-55.
- 黒川愛子 (2020). 「日本人中学2年生・3年生のスピーキング力育成に対する『ラウンド制指導法』の効果に関する実証研究—スムーズな小中接続に向けて—」『LET関西支部研究集録』18, 99-124.

- 黒川愛子・山川拓 (2019). 「スムーズな小中接続に向けてのパフォーマンス課題と評価の取組～『思考力・判断力・表現力』の育成のために～」第19回小学校英語教育学会発表資料.
- 松浦伸和 (2021). 「第章英語科の小・中・大の連携」卯城祐司・檜葉みつ子編著『中等英語科教育』(pp. 208-209). 協同出版.
- 文部科学省 (2017a). 『小学校学習指導要領 (平成29年告示)』文部科学省.
- 文部科学省 (2017b). 『中学校学習指導要領 (平成29年告示)』文部科学省.
- 文部科学省 (2018a). 『高等学校学習指導要領 (平成30年告示)』文部科学省.
- 文部科学省 (2018b). 「平成31年度全国学力・学習状況調査解説資料児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて中学校英語」[https://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19kaisetsu\\_chuu\\_eigo.pdf](https://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19kaisetsu_chuu_eigo.pdf).
- 文部科学省 (2021). 「平成31年度 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導資料中学校 英語」[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku/eigo/pdf/eigo\\_All.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku/eigo/pdf/eigo_All.pdf).
- 文部科学省 (2022). 「令和3年度『英語教育実施状況調査』概要」[https://www.mext.go.jp/content/20220516\\_mxt\\_kyoiku\\_01-000022559\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220516_mxt_kyoiku_01-000022559_2.pdf).
- 根岸雅史他 (2021). *NEW CROWN English Series 1*. 三省堂.
- 太田洋他 (2021). *Here We Go! ENGLISH COURSE 1*. 光村図書出版.
- 鈴木寿一 (2007). 「コミュニケーションのための基礎力と入試に対応できる英語力を育成するための効果的な指導法」『平成18年度Super English Language High School 研究開発実施報告書』71-84. 京都外大西高等学校.
- 田尻悟郎他 (2021). *BLUE SKY English Course 1*. 啓林館.
- 高橋一幸 (2021). 『改訂版 授業づくりと改善の視点 小と高をつなぐ新時代の中学校英語教育』教育出版.
- 竹蓋幸生 (1998). 「三ラウンド・システム:理論の骨格と効果の検証:英語コミュニケーション能力の効果的な養成を目指して」『千葉大学教育学部研究紀要. II, 人文・社会科学編』46. 87-97.
- 卯城祐司他 (2021). *SUNSHINE ENGLISH COURSE 1*. 開隆堂出版.
- Van Pattern, B., Smith, M., G. Benati, A. (2020). *KEY QUESTIONS IN SECOND LANGUAGE ACQUISITION An Introduction*. Cambridge University Press.